

# スローテンポ通信

第 62 号

2022年12月6日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町 3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

## ◎いま注目の本

増補修訂版

### ○『権力を取らずに世界を変える』

ジョン・ホロウェイ著 大窪一志・四茂野修訳 同時代社 2021年 3000円+税

☆☆☆☆☆

不正と矛盾に充ちたこの世界を変えるには、政権を奪取するしかない。その手段は、選挙か、それとも武器を取るか？

それが常識だった前世紀の変革者たちに、ホロウェイは衝撃を与え、世界中で論争を巻き起こした。

メキシコ先住民サパティスタの解放区は、世界中から支持され、軍も手を出せないで自治が成り立っている。ホロウェイの主張が空論ではないことを、事実が裏付けている。

### ○『世界を変える知的障害者

ロバート・マーティンの軌跡』

ジョン・マクレイ著、古畑正孝訳 現代書館 2016年 2200円+税 ☆☆☆☆

たぐいまれな交渉力で 世界中から尊敬され慕われ活躍した知的障害者の物語。彼なしに障害者権利条約は成立しなかった。「障害者抜きで障害者のことを決めないで」は、彼の主張だった。

なぜ有能な彼が「障害者」で、国会で「記憶にありません」をくり返す政治家や役人が「障害者」とされないのか。

## ◎ 参加するだけで、本を読みたくなる

### 本を読まない人の読書会

第4土曜日午後3時~5時

次回12月24日は

#### 『心なき精神医療を父が裁く』

竹内實著 現代書館 2022年9月発行

これは人ごとではない。父親が息子の悲劇を冷静に見つめ考え行動する物語。

☆ 本の紹介後、自由に話し合います。参加無料、予習不要、出入り自由、発言するしないも自由、とんでも発言歓迎！

## 記憶をなくすのは便利な能力だ

高齢者の運転は危険だとして、認知機能検査が義務付けられるようになった。高齢になると様々な能力が衰えるのだから、やむをえないとされている。

物忘れの多い高齢者のことを、かつてはボケ老人といってバカにした。今は認知症として施設に入れてしまう。

記憶力は歳とともに衰えるから、高齢者は不安でたまらない。よく考えれば、誰もが歳をとるのだから、誰もが不安だ。

認知症という言葉は、高齢者や家族だけでなく、将来を考える一般人たちまでをも不安にさせる。その一方で、テレビのニュースでは、問題の宗教団体と政治家との癒着が、与野党を巻き込んで大騒ぎになっている。

記者会見で連日聞く言葉が、「記憶にありません」である。

テレビで国会中継が始まって以来、野党の追及に対して与党議員や省庁役人の答弁で出てくる決まり文句だ。

なるほど「記憶にありません」とは便利な言葉だ。記憶にないのだから、相手はそれ以上の追求ができない。自分の本心を白状する必要も、言い訳する必要もない。反省する必要もない。

そう考えると、記憶をなくすというのは人間にとって極めて便利な機能であり、簡単に記憶をなくせるのは、優れた才能といえるかもしれない。

人として生活する限り、忌まわしい事件や、忘れてしまいたい体験は避けられないものだ。それを精神科医や心理学者はトラウマ体験などといって脅かす。もともとトラウマとは傷という意味でしかなかったものを、「心の傷」にも使い始め、恐怖をあおった。

人間の脳は、恐ろしい体験を強く記憶に刻むようにできている。危険なものとの遭遇を避けるためだ。

危険でない記憶から先に忘れるのだから、危険な記憶ばかりが残るようにできている。

さらに、人間の脳の記憶容量は限られている。記憶の器が満杯になれば、あふれた分はこぼれ落ちる。危険でない記憶からこぼれ落ちるのだから、危険な記憶ばかりが残るようになっている。

もし、記憶の器がいやな記憶ばかりになってしまったら、いつも心配ごとばかりで、悲観的で暗い人生になってしまう。

だから、人間には、自分で記憶を取捨選択して都合の悪い記憶をなくす能力が備わっている。その能力に乏しい人が、心の病気になってしまう。

逆に、その能力に優れている人が、「記憶にありません」を連発する政治家や役人といえるだろう。

この歪んだ社会を生き延びるために、庶民はやけ酒に頼って記憶を消そうとする。ひょっとすると、高齢者たちも、自ら記憶を消しているのかもしれない。

ここで、政治家の「記憶にありません」はウソに決まっている、と批判が出るだろう。

ならば、政治家にも認知症検査を義務付けるのがよい。高齢者の運転に認知症検査を義務付けたのは政治家たちだ。政治家たちにも義務付けてこそ公平だ。

認知症と出れば資格を剥奪し、認知症ではないと出れば、偽証罪も疑い、さらにきびしく追及を続けるのである。

そもそも、記憶能力の低下を病気と決め付ける現代医学が狂っている。

記憶力が低下しても、うまくカバーできるなら生活に困らない。記憶がなくても政治家がつとまるのである。

若年性認知症と診断されても、必要なことをメモ書きやスマホに記憶させ、仕事を続けている人は多い。

テレビやスマホでは自動化、無人化を宣伝している。すでに記憶力がなくても生活できる時代になったのだ。

記憶力の低下を病気と決め付け、施設に閉じ込めたのは、決して本人のためではない。政治家、医者、製薬企業、事業者たちの都合だったのだ。

記憶力が低下したと感じても、便利な能力を得たと思って、そのままの生活を続けるのがよい。

不安な人は、試しにスローテンポ書店の懇話会に参加してみればよい。ここでは現実をありのままに見つめ、思ったことを自由に発言できる。記憶力が乏しくても悩む必要がないことがわかる。

(ブログより抜粋)



本好きも本嫌いも

本のよさを再発見する！

## スローテンポ書店

小山駅西口 **ロブレ** 地階

営業: 火、木、土 13時~19時

☆ 年末は29日から休み、新年は1月5日(木)からです。新年から営業日が、火木土に変わります。

## ☆ 懇話会

ディベート型ではなく **課題解決型** で話し合います。悩みごとを出してください。みんなできっしょに考えます。どなたも歓迎！経歴や過去を問いません。

第2土曜日 午後3時~5時、参加無料。

## ☆ 伝わる文章教室

文章は最も正確で直球の表現手法です。自分で書いたものを人に読んでもらい、意見を交わすことによって考えが整理され心揺さぶる文章が出来上がります。作品集があります。

第2木曜日 午後3時~5時、参加費500円。